

令和4年度 第3回 社会教育委員会議 会議摘録

開催日時：令和4年11月29日（火）午前10時00分～午前11時35分

開催場所：精華町立図書館 1階 集会室

出席委員：

高鍋房美委員長・村上栄副委員長・白畑丈子委員・尾崎麻由美委員・堀口紀代美委員・播磨富士子委員・尾崎万佐子委員・吉田一雄委員・山田昇委員・丸山琴羽委員

出席事務局職員：

教育長 川村智・生涯学習課長 田原孝一・図書館長 波尻寛之・社会教育係主任主査 黒田成代・生涯学習指導員 畑中悟

傍聴者：無し

内 容：

- 1 開会
- 2 あいさつ

○高鍋委員長あいさつ

おはようございます。今朝、テレビを見て、ワールドカップで新しい流行語大賞の候補が出ています。東京オリンピックが決まった時に、「お・も・て・な・し」という日本でのすばらしい言葉が世界中に広がって、とても良かったと思います。今回はワールドカップで、試合後にサポーターの方々が掃除している姿を見て、大会メディアの方がインタビューすると、「自分たちが使ったものをきれいにするのは当たり前です。」という言葉が多かったようで、今回は「A T A R I M A E」というローマ字表記でしたが、やはり良い言葉だなと思いました。

ただ、当たり前の中でも伝えなければいけないこと、当たり前だけれども見直さなければいけないことも多くあると思いますので、本会議の中で、皆さんと意見交換をし、まとめることができたら良いと思います。今日はよろしくお願ひします。

○川村教育長あいさつ

今日は足元の悪い中、お集まりいただきましてありがとうございます。

平素は、精華町の社会教育、生涯学習の振興のためにご尽力いただきまして、誠にありがとうございます。

今日の会議に先立ち、社会教育に係る名誉ある表彰などについて、3件ご報告させていただきます。

1件目は、令和4年度京都府教育功労者表彰で、精華女性の会会長で社会教育委員の白畑丈子様が、京都府連合婦人会本部役員として、長年にわたり京都府の社会教育の振興に貢献された功績が認められ、11月17日に京都府教育委員会より表彰を受けられました。

2件目は、令和4年度京都府青少年健全育成成功労者等知事表彰で、本町在住、精華町青少年健全育成協議会監査の井上好様が、17年という長きにわたり、精華町青少年健全育成協議会の役員として青少年を取り巻く社会環境の向上に寄与いただいた功績が評価され、来る12月1日に、京都府より表彰を受けられる予定です。

3件目は、10月20日のプロ野球ドラフト会議で、精華町在住、大阪桐蔭高校野球部の松尾汐恩さんが横浜DeNAベイスターズから1位指名、今週27日に正式に入団が決定したことを受け、昨日、役場庁舎にも懸垂幕を掲揚しました。松尾さんのこれまでの特に顕著なご功績に敬意と感謝を申し上げるとともに、今後のさらなるご活躍を大いに期待しております。委員の皆様にも、本町出身の若者の大きな挑戦を温かく見守っていただければ幸いです。以上が報告です。

なお、今日の会議ですが、事務局から、まず、むくのきセンター等町内体育施設の指定管理者の候補者について報告をさせていただき、続いて、子ども祭り及び図書館事業の実施状況について報告をさせていただく予定です。また、委員の皆様には、今年度、ご出席いただいた研修会の報告、感想等をいただき、委員の皆様同士の意見交流を更に深めていただきたいと考えています。意見交流を通して本町の社会教育、生涯学習の振興に有益なアイデアなどが生まれることを期待しています。

今年度も、新型コロナウイルス感染症の影響で引き続き様々な活動が制限されておりますが、感染症対策を取りながら、できる限りの事業を行ってまいりましたし、今後も行ってまいりたいと思いますので、皆様にも、できる限りの範囲でご支援賜りますようお願い申し上げます。

以上、ごあいさつとさせていただきます。本日はよろしくお願い申し上げます。

3 報告

(1) 教育委員会が所管するむくのきセンター及び町内体育施設の指定管理者の候補者について

(生涯学習課長から教育委員会が所管するむくのきセンター及び町内体育施設の指定管理者の候補者について報告)

【田原生涯学習課長報告】

来年3月で指定管理期間の終わるむくのきセンター及び町内の体育施設の次期

指定管理者の候補者の選定について、9月に公募を行い、応募があった3件の申請者に対し、選定委員会を設置して、慎重なる審査を経て、指定管理者の候補者を選定した。

むくのきセンター等町内体育施設は、平成25年から指定管理者制度を採用し、1期5年の期間で、指定管理第1期と第2期は、指定管理者が1者選定により、前体育協会である、精華町スポーツ協会が受託していた。来年、令和5年4月からの第3期目については、サービスの提供者を民間事業者から幅広く求めて、透明性の確保やサービスの向上を期待できる方式として、一般公募による募集を採用した。

令和4年9月1日から公募の公告、募集要項の配布を行い、10月3日まで申請受付をした。精華町スポーツ協会・三幸グループ、精華町むくのき未来プロジェクトグループ及び日本環境マネジメント株式会社の3団体から申請があり10月7日、10月19日、11月2日と選定委員会を3回開催し、指定管理者の候補者を選定した。

選定委員会は、精華町教育委員会所管施設指定管理者選定委員会設置及び運営要綱に基づき、委員長に、京都府立大学公共政策学部の田所祐史先生、副委員長に、龍谷大学政策学部の石倉研先生、そして社会教育委員長の高鍋房美様、一般公募の委員として、鳥家忍様、村上智子様、中村博様の計6名の委員で委員会を構成。

次に、審査結果について、選定委員会において審査基準に基づき、10項目の審査項目について項目ごとに10点の合計100点満点で評価を実施。3団体について6名の委員の合計点数が最も高い(489点)精華町スポーツ協会・三幸グループが候補者として選定された。

今後は11月30日から開会の町議会で、指定管理者の指定について承認をいただき、その後、来年の3月に指定管理者と精華町とで基本協定を締結、4月から第3期指定管理者制度の運用開始という予定。

選定委員会委員長から、精華町教育委員会教育長へ提出された今回の指定管理者候補者の選定結果の報告書については次のとおり。

精華町スポーツ協会・三幸グループは、地域交流促進の施設管理運営方針を明確にし、それを事業展開に際し住民、地域団体・組織を横につないでいく方策に具体的に反映させ、施設の性格を踏まえ適切に示していた。地域に根差した活動に加え、施設管理では共同体を構成する三幸株式会社の強みを生かした維持管理

計画も明確に示していることが評価できる。施設のスポーツ・文化振興発展向上に寄与する目的の公共性を十分に理解し、障害者スポーツ推進など具体的、積極的な内容の事業提案があった。運営や事業展開に創意工夫が見られ、住民目線で利用者に寄り添った事業展開となっている。利用者サービス向上策で利用時間拡大、受付時間延長など利便性を考えて計画されていると選定理由を示された。

候補者に対する意見として、選定委員会は、今回申請のあった3事業者の中から、上記により相対評価による評価点方式により当該候補者を選定した。今後とも指定管理者に付託される当該公共施設が地域住民の福祉向上に資するよう、次の事項について、候補者も行政も十分に留意し、よりよい公共施設の管理運営となるよう課題解決に向け不断の努力をされるよう申し添えるとして、5つ意見をされている。

1 番目、コロナ禍において、収支の状況が厳しくなる可能性が考えられるため、収支に関連する事項について、赤字が続くことがないよう特に留意をされたい。

2 番目、中長期修繕計画の策定による修繕費の縮減について、体育館・コミュニティーセンターは、施設設備の修繕が比較的多い時期を迎えているが指定管理期間において、先送りすることのない十分な小規模修繕やメンテナンスの実施をすること。

3 番目、公共施設の効率的運用として、経費の削減策について、もう少し踏み込んで研究する余地がある。

4 番目、今後の5年間で、指定管理者は、スポーツ・文化事業の展開に際し、地域福祉、地域づくりの問題や社会教育、地域文化の創造にも関心を持って取り組むことと、職員のさらなる力量形成に努めることが重要である。

5 番目、精華町スポーツ協会は、新規事業の開拓に向けて、惰性にならないよう、スポーツ・文化事業の展開に努められたい。また三幸株式会社と共同体となることで施設管理部門を補いその成果を最大限実績に反映されることを期待する。

○村上副委員長

三幸株式会社というのは、東京の会社ですか？

○田原生涯学習課長

三幸株式会社は、本社は東京、大阪にも支店がある全国的に施設の管理で展開している会社で、公共施設の指定管理についても、今まで多くの実績がある。関西でも幾つかの体育館やグラウンドなど公共施設の指定管理の実績あり。精華町では、けいはんなプラザを開設当時から30年程、指定管理では無いが建物管理を行って

いる会社です。

(2) 令和4年度全国(近畿地区)社会教育研究大会(奈良大会)【9/2】について
(委員から感想・報告等)

○村上委員

記念講演は大変分かりやすくとても参考になりました。特に、自治体の社会教育行政は市民自らが決定するという市民参加を基本原則とし、社会教育委員の制度は、市民参加を実現させる仕組みである。そして社会教育委員の役割は市民と行政の橋渡し、パイプ役であるということについて分かりやすく説明していただきました。ただ、それを実際に実行するとなるとハードルが高いかないと私自身は思っています。

それから、今、自分が関わってる問題で、地域学校協働活動は、コミュニティ・スクールとの両輪が有効であるというお話があり、その具体例を示していただき、今の私自身の活動に参考になると思いました。

「学校・家庭・地域の協働」分科会では、地域学校協働活動推進員が学校運営協議会と地域学校協働本部とをつなぐパイプ役になって、学校と地域が連携して行う様々な協働活動を中心となってされていることを、表も交えて分かりやすく説明していただきました。

○尾崎万佐子委員

島根県の事例では、子どもだけでなく、大人もみんな笑顔を増やすために、人と人の語りの場を増やす、私たち社会教育委員、民生児童委員、青少年教育や家庭教育などとのそれぞれのつながり、地域の力を活かして、それぞれ地域にしっかりと笑顔を増やす、そんな思いを持って毎日生きていかなければと、改めて思いました。私は毎朝子どもたちの見守りをさせてもらっていますが、やはり子どもたちの元気なあいさつにエネルギーをもらってるなと思ってます。また、私は「青少年教育」という分科会に参加しましたが、「おはよう。」の後に「今日も元気ですか？」などとあいさつプラス声かけをすることも大切とのことでした。一方で「声をかけて不審者と間違われることもある。」というような意見も出ました。しかし、「とにかく子どもたちに声かけをすることが必要で、あいさつをしっかりとできる子どもを育てることが大事なんです。私はやはりあいさつを日常的に心がけています。」との意見を聞き、私も頑張ろうという思いを改めて持った大会でした。

○山田委員

私は「地域づくり」分科会に参加しましたが、京都北部の自治会が非常に頑張っておられた事例の発表を聞いて非常に参考になりました。同じ京都府ですが、一番

北部の方からの発表なので状況は違いますが、どの地域もやはり同じ課題を持っていました。私も自治会の役員をしていますが、様々な課題を解決するためには、地域で意見をまとめリーダーシップが取れる人がいないと前進しないというのが実感です。コミュニティを大切にするためにはいろんな仕掛けが大切ですが、地域によってそれは違うので、それを考えていくことが難しいと感じています。

○播磨委員

講師の先生の資料は本当に分かりやすく、社会教育委員は法律の中でどのように定められ現在に至っているのかということ詳しく順序立てて講演いただきました。私は社会教育委員になった時に自分には大役なのではないかと大変不安でしたが、それを打ち消していただける講演でした。私が参加した分科会では、岩出市の地域学校協働活動ボランティアについては一番最初の方が頑張ってくれたお陰でたくさんボランティアが立ち上がっていったという発表でした。地域と学校の情報共有がとても大切だ。子どもを核とした学校、地域になる必要がある。学校、家庭、地域の3者がWin-Win(相互に有益である)でないといけない。PTA役員をしていた人が、その後続けてコーディネーターなどのボランティア活動に参加できるよう、うまく橋渡しすることができれば、もっとボランティアが増えるのではないかなど、なるほどと感じたお話でした。

○白畑委員

私は「青少年教育」分科会に参加しました。私は、登校時にボランティアで見守り活動をしています。子どもに「元気？」と声かけしてハイタッチをすることで子どもからのたくさん元気ももらって本当にありがたいです。しかし、後継者がいないことが今の課題であると感じています。

○吉田委員

私は「地域づくり」分科会に参加しましたが、北部の方は地域の特産品をうまく活用し、地域を盛り上げておられます。私たち社会教育委員も、今後、精華町のブランド力を生かして地域を盛り上げていく方法を考えることが大切だと感じます。

(3) 令和4年度京都府社会教育研究大会【11/17】について

(委員から感想・報告等)

○村上副委員長

講師が地域活性化をめざす「ふるさとプラットフォーム」の形成段階(地域の再認識と地域学習の深化の段階→地域課題の明確化と活動への参画の段階→課題の共有化と解決に向けたプラットフォームづくり)についての講演をしてくださいまし

た。このような取り組みが精華町でもできたら良いと思いますし、それを実現させることが私たち社会教育委員の役割であると実感しています。

また、京都府教育振興プランの中で「包み込まれているという感覚」という良い表現があり、人と人のつながりの中には、相手を思いやる心がベースにないといけないと思いました。

その後のパネルディスカッションの際、山城地域の紹介の中で「精華町では現役大学生の方が社会教育委員として活躍されています。若い方が積極的に社会教育の場に参画いただくことは、素晴らしいことです。」と会場の皆さんにアピールしてくださったので、とてもうれしかったです。

○尾崎万佐子委員

エネルギーな講演で、京都府教育振興プランを踏まえて、子どもも大人もみんなが包み込む力をつくることが大切で、また学校の先生には気づく力、つながる力としてチームワークで子どもたちと関わるが必要とされていることを改めて感じました。そのプラン実現のために社会教育委員としてもう一度自分自身を見つめ直し、まずは、笑顔で地域の人と接することが大切であると改めて思いました。

また、パネルディスカッションでは「地域づくり」というテーマで少子化が加速している地域において、子どもたちに興味を持ってもらうため自治会で頑張っている、地域おこし・地域づくりについて発表があり、参考になりました。

○山田委員

非常に勉強になった大会で、社会教育委員として、どうしたらその行動に移せるかを考えながら参加していました。

パネルディスカッションされた地域については帰農、Iターン、Uターンが多く、コーディネーターのような地域をまとめる力のある人を中心に、その方々が農業を生かして、地域の特産を生かして非常に頑張っておられるようです。発表は大変良かったのですが、私としては、勉強のため、うまくいかなかった事例なども聞きたかったです。私の住む地域では地域活性化のため、様々な年齢層の人が集会所を訪れるよう本棚を作って本を置いてもらったりしていますが、普段閉まっているのでその目的が達成できず課題となっているのが現状です。

○播磨委員

講演は、コロナ禍で様々な分野にオンライン形式が取り入れられたり、教育ではハイブリッド型の教育とか学習が採用されたりしている、南丹では事業をオールラウンド型からピンポイント型や（隙間という意味の）ニッチ型へ転換する会社が出

てきている、若者がリモート社員となってふるさとに帰り、時間に余裕ができ、その時間で自治会活動をすることが可能となるのではないかというお話もありました。

もともと地域にあったものを、今は浮かび上がらせる、眠っていたものを表に出してやる必要があるというお話もありました。

それからプラットフォームをつくることは大切で、それは心のつながりにもなるというお話もありました。

○尾崎麻由美委員

私も講演を聞かせていただいて、コロナ禍でオンラインなどの新しいことを無理にでも学んだことは良かったと感じました。また、社会教育委員同士の仲間意識も大事、地域の皆様や行政の方と関わるのも大事ですが、委員同士で何か目指すものを見つけることができれば、地域の皆様にも何か還元できるかなと思いました。

パネルディスカッションは、丹後ブロックの方が自治会への関わり方を考え直さないと、これからの自治会は成り立たなくなるのではないかというようなことを話され、私も自分の地域のことを思えば、考えさせられることがありました。

○丸山委員

社会教育委員のお仕事は、大学生は時間もあり役割を果たせるかと思われ務めさせてもらっています。しかし、平日の日中の活動が多く、大学の授業と重なることが多く参加させていただくのが難しいなと実感しています。周りの友人も社会教育委員は大変そうだと敬遠されるイメージを持っている方が多く、幅広い年齢層が参加できるような方法は無いかなと感じています。また、地域おこしという観点から、伊根町などは、最近、大学生がドライブスポットとして訪れる人が多く、意外と「京都市以外の京都府内の地域にお出かけしよう。」というようなことが、ちょっとしたブームなのかなと感じていますので、精華町でも地域おこしという部分では今が頑張りどきのなのかもしれないなと思いました。

○高鍋委員長

私は最近、立場が変わり目線が変わると、世の中はこんなにも違ったように見えるのかと感じます。また、全然違うようで同じであると感じることもあります。例えばSNSについても悪い面ばかりがクローズアップされがちですが、使い方さえ誤らなければそれはとても良い情報発信のツールになります。和束町や井手町では学生さんと協働して地域活性化を図られています。精華町でも丸山委員始め学生の方と協働して地域活性化に取り組めたらよいと感じます。

○白畑委員

南稲では、毎年、若い人が主体となって「おいわか祭」という祭りをしています。

○尾崎万佐子委員

南稲では、秋に運動会を実施しています。また、地域の消防団等の若者が中心となり「おいわか祭実行委員会」を立ち上げて「おいわか祭」を運営してくれています。この祭では老いも若きもにかけて「おイモ」の芋はサツマイモ、「わかき」の柿は吉野の柿をたくさんむいてみんなで食べます。そして、精華台小学校や精華中学校吹奏楽部の子どもたち、先生方も参加していただいています。カラオケや「せいか音頭」を踊ったりもします。今年で8年続いています、これらの行事を通して地域が活性化され地域の絆が深まっていると感じています。

(4) 令和4年度第19回精華町子ども祭り【11/20】について

(事務局報告)

今年度の子ども祭りについては、新型コロナウイルス感染症の先行きが不透明であったことや、屋内での開催であることにより、感染症対策に十分に配慮した形で実施する必要があったため、体験コーナーについては縮小開催とし、教育委員会主催で実施した。内容については、メインホールで、青少年健全育成標語の表彰、精華町内の学校などによる音楽発表や吹奏楽体験などで、延べ約1,700人の方にお越しいただいた。また、ホワイエでは、5つの小学校のまなび体験教室合同開催として、ビュンビュンゴマ作り体験を行い、延べ300人の方にお越しいただいた。子ども祭りについては、感染症の影響でここ数年、交流事業としての実施が難しくなっているが、子どもが楽しみながら体験学習し、世代を超えた人と人との交流を通して文化芸術を伝承できる貴重な行事であり、また、精華町の様々な小・中学校の子どもたちが文化交流できる機会でもあるので、コロナ禍であっても、この事業の目的を果たすことができるよう、来年度は本来の形で実施できればと考えている。来年度の会議では委員の皆さま方からも意見などを頂戴したい。

(5) 令和4年度図書館事業について

(図書館長報告)

新移動図書館車、4台目あおぞら号について、購入費用は約1,700万円(内、1,000万円はコミュニティ助成事業補助金)。トレードマークのバーバパパについてはこれまで同様に引き続きキャラクターを大きく描いている。2トン車とコンパクトになり、本の積載数は1,000冊。中に別にブックトラックで本を載せ、晴天時には屋外で本を見ていただくという効果的な形でも運用できる。車両は環境に優しいハイブリッド車に変更。リフトを使って、車椅子での利用が可能となった。

令和4年4月14日にお披露目会を行い、翌日から町内24か所のステーションへの巡回、5月から町立町営の3つの保育所と1つの高齢者福祉施設への月1回の巡回を始めた。個人貸出数については令和4年度は10月末時点で既に9,000冊と、前年度の約1.3倍に増加している。

次に図書館の新サービスとして、12月1日から、近鉄新祝園駅の改札口付近に返却ブックポストを設置する。

次に令和3年度図書館年報について、開館20周年を記念し、小学生を対象にした「いちにちなりきり司書たいけん」や「本の修理ワークショップ」を行った。恒例の「雑誌と本のリユース・デー」、直木賞を受賞された今村翔吾さんの講演「図書館文学講座」も大変好評であった。個人貸出数については38万点に増加。感染症対策に配慮し休館をしなかったこと等が要因と考えられる。

○丸山委員

私は移動図書館を見たことはありますが利用したことが無いです。平日の昼間に会う機会もほとんど無いのですが、移動図書館をせいか祭りのときに、記念公園などで展示してお披露目するような企画は難しいですか？

○田原生涯学習課長

今年、移動図書館車が新しくなったので、せいか祭りと同時開催の子ども祭り会場であるけいはんなプラザの前の日時計広場でお披露目できたらと考えていましたが、手続き時間が無く実現できませんでした。今後はそのような機会を活かしていただけたらと考えます。

4 その他

○田原生涯学習課長

今回の社会教育委員会議については、今年度最終になると思います。まだ日程は確定しておりませんが2月頃に開催をさせていただきたい。

5 閉会

○村上副委員長

各研修会の感想を活発に交流できたことはすばらしかったと思います。これからも、委員の皆様のを大いに引き出し、一緒に協働していけるような、そんな社会教育委員会議にしていきたいと考えます。本日はありがとうございます。